

後期も一歩ずつ前進！

校長 松澤 朗

先日23区のコミュニティスポーツ大会に顔を出しました。昨年度は雨天で中止になってしまった大会でした。ここにも頑張る小泉中の生徒がいて、頼もしい限りです。この大会は、多くの地域の方々が集まる催し物です。

軽スポーツや各種運動を行います。そのお手伝いを30名近くの子がしてくれました。

「自分の時間を人のために使う。」これが、社会を温かくする大きなエネルギーとなります。同じ日に他の会場でもボランティアに参加している人もいます。以前も、今日以降も同様です。皆さんが、社会を明るくしています。どんなことでも前向きに一歩ずつ前進しています。頑張る小泉中生！！

さて、今期のテーマは「躍」（10月9日から12月2日）その生活目標は「さわやかな服装、美しい教室。」そして学習目標は、「人の話に目と心を傾けよう」です。上記のスポーツ大会にもそんな姿が見られました。



作品入選者のお知らせ

多治見市中学1年生人権標語コンテスト

入選 永江心美 「いじめなし なみだが笑顔に 変わってく」

入選 鈴木梨眞 「あいさつは 笑顔と平和と思いやり 町全体が 明るく元気」
素敵な標語ですね。入賞おめでとうございます。

ケータイ使用ルール作り 「他律」から「自律」へ

教育推進課

兵庫県が一昨年改訂した青少年愛護条例では、県内すべての人に「青少年のインターネット利用に関するルール作りの支援」を義務づけています。ポイントはルールを作るのは青少年自身だということです。大人が作ったルールを押し付けても、子どもたちは守らないことが分かってきました。それでは子どもたち自身にルールを考えさせよう。そういう思いが込められた条例だと解釈しています。

条例制定の流れは、「所持禁止」から「大人によるルール提示」に移行し、さらに「子どもたち自身によるルールの制定」に移行してきました。この流れは「他律から自律」への流れです。大人が決めたルールに子どもを従わせる（他律）のではなく、子どもたち自身で自分たちの行動を考えさせる（自律）のです。

これからは携帯電話等の使い方を考えることを通して、子どもたち自身に自分の生活について考えさせるきっかけを提供していくことがメインになっていきます。そういう考えに私たちの社会は切り替えていく必要があります。

（竹内和夫：兵庫県立大准教授 日本教育新聞 4.16 より）